

# 第3支会

## 1 地域の概況

当地域は、青梅市の東部地域に位置しており、西は東青梅地区、北側は霞丘陵を背にひかえ、南は河辺地区までの地域で、中央に豊岡街道が走り、南側に青梅街道、北側には霞川が流れている。

昭和26年に青梅市が誕生した以後、東部台地の区画整理事業による新しい街づくりが行われた。近年は、住宅地、商業地として都市化が進み、マンションや住宅が建設され、人口も増加し、多種多様な文化生活が営まれている。

また地域内には、由緒ある寺社、文化財や緑も多く、自然環境の良さと交通の利便性に恵まれ、古きものと新しいものが自然に溶け合い、調和のとれたすばらしい地域である。

現在の第3支会は、吹上、野上、大門、塩船地区と、谷野、木野下、今寺地区の二つのブロック、15自治会で構成されている。

地域内の世帯数と人口は、50年前の昭和35年（支会分割前）が2,412世帯、12,299人で平均5人家族であったが、平成21年現在では、8,234世帯、20,256人で平均2.5人家族である。当地域も核家族化等が進み、家族や地域での人間関係が希薄になり、コミュニティの醸成が課題となっている。支会、自治会では、催し等を通じ自治会加入促進に努めている。

地域内の主な公共施設は、青梅警察署、青梅交通公園、東原運動場・流水プール、吹上しょうぶ公園などのほか、保育園が5園（かすみ台第一、第二、第三保育園、今寺保育園、鈴の音保育園）がある。小中学校は三小、吹上小、三中、吹上中があり、平成18年度から平成20年度にかけて三小、三中、吹上小に特別支援学級が開設され、地域の理解と協調に支えられながら教育の充実が図られている。また、大門地区には都立青梅看護専門学校と隣接して平成21年度に、都立青峰学園（特別支援学校）が開校し、地域や小・中学校との交流も行われている。

また、昭和49年に開設された夜間、休日診療の大門診療所は、平成17年に廃止になったが、現在、障害者に対する相談活動の拠点施設としての整備をすすめている。

## 2 地域の歴史

昭和26年に青梅町、霞村、調布村が合併し、青梅市が誕生した。当時の市人口は36,094人（配給人口）で霞地区は10,431人であった。

大門市民センターの玄関前には当時霞村役場の職員が記念に植樹した桜が巨木になり、桜の季節には多くの人々を楽しませている。



大門市民センター玄関前の桜

現在この地域では、霞川、霞丘陵、霞台など「霞」を冠にしたいくつかの例がある。霞村の名前の由来については、根ヶ布にある曹洞宗の名刹・天寧寺の裏庭にある霞ヶ池を水源として、根ヶ布から当地域を東流して、入間川に合流する霞川によるという説が有力である。

霞地区は戦前は養蚕、戦後は米麦を中心に農業が行われ、見渡す限りの麦畑、お茶・桑の木がたくさんあり、春になると関東ローム層の赤土が空中高く舞い上がり空を赤く染めていた。昭和40年代に入り区画整理による街づくりが行われると、都市化が進み様相が一変した。

人口の増加とともに、第3支会も昭和41年に根ヶ布、東青梅、師岡地区（第8支会）を分割。昭和48年には、新町、末広町地区（第9支会）を分割。更に、平成4年には藤橋、今井地区（第11支会）を分割し、現在の組織に至っている。

当地域も時代とともに街の様相も変わったが、緑の中に静かにたたずむ古刹、社殿やつつじ、菖蒲など季節の花々があり、自然と調和した中に歴史や文化が残されている。

野上二丁目の三叉路には、昭和44年まで「野上の一本檜」と呼ばれる檜の大木があった。根元には文政12年建立の馬頭観音があり、右は扇町屋、川越、左は飯能、秩父と彫られていました。現在は春日神社の境内に移されている。

また、その大きな根株は現在、第三小学校校庭の一隅に移され、多くの児童の郷土教育資料として役目を果たしている。

この三叉路から豊岡街道を行くと大門の交差点がある。明治の中期には、青梅町の森下から入間川町まで、木製の箱型の客車を馬に引かせた「中武馬車鉄道」が走っており、大門停車場がこの辺りにあった。また、三小・三中学校付近を中心とした範囲は、江戸時代から明治22年までは大門村と呼ばれ、その後昭和26年までは霞村の中心地として栄えた。

さらに東に行った今寺2丁目交差点には、市の天然記念物指定の一里塚の榎がある。ちょうど青梅駅前から1里の距離で、かつては旅人の休憩所や里程の目安として役立っていた。

### 3 支会（自治会）活動

支会の活動は、事業計画に沿って行っている。会員の体力づくりと交流の促進および会員の加入促進のため、地区市民運動会、各種体育事業を実施している。中でも人気のあるビーチボール大会は、毎年参加チームが増え、今年は60チームが参加し盛大に行われた。また、ファミリーゴルフ大会や地区運動会等の事業を通じ積極的な体力づくりと親睦を図ると共に会員の加入促進を図っている。

交流事業として、地域文化祭「ふるさと祭り」を昭和60年度から実施。一箇所に地域の人々全員が集い、参加できる祭典をと始まった。昨年は24回目の「ふるさと祭り」を実施し、3,200人も地域住民の参加があり交流が図られた。

さらに、生活環境の向上と安全・安心のまち



ふるさと祭り

づくりを促進するため、各自治会では防犯パトロール隊を結成し、住みよい安全なまちづくりに寄与している。支会では、防犯の講演会や防災訓練の実施、昭和61年度からは、「霞川愛護の日」を設け、夏に霞川清掃を実施している。

さらに、交通安全、防犯、防火運動への協力、ごみ減量、資源回収、青少年健全育成の推進、各種募金活動等の協力・支援を行っている。

次は、各自治会活動の特徴的なものである。

吹上地区（吹上自治会）は、明治17年刊行の新編武蔵風土記稿によると「吹上の地は、小曾木郷」と言われ、いにしえよりこの辺りを勝沼の地と言われたそうである。「東西およそ10町（1,090m）、南北は8町（870m）」とある。この沼地の部分の地の利を生かした吹上耕地は、今、吹上しょうぶ公園となり市の景勝地のひとつになっており、開花季節には多くの観光客で賑わっている。

明治の初め、36軒程の民家しかなかったこの地域は、今や田畑は減少し宅地化の様相を成し、自治会も大世帯となっている。地域内には吹上小・吹上中学校と、ナイター設備のある吹上グラウンド、公会堂と鎮守の吹上神社があり、スポーツや憩いの場となっている。平成20年度には老人福祉施設やすらぎの家との防災協定を結び、地区の安全にも考慮している。自治会としては施設等を積極的に利用し、独自の運動会、各種スポーツ行事や盆踊りをする中で、自治会の課題にも対処しながら地域住民の交流、親睦を図っている。

野上地区（野上第一、第二、第三自治会）は、野上第三自治会の活動について述べる。当自治

会は、河辺駅の北側にあり青梅街道を挟んで北側の3丁目、南側の4丁目が地域である。自治会加入は、かつては450世帯以上であったが、現在は、290世帯と減少傾向である。当地域は新しい住民も多いため、隣近所の付き合いも少なく、子供会の加入率も減少している。自治会としては、子供達が将来この地を故郷と思えるような街づくりを目指し活動をしている。

今年子供会で野菜の苗を植え、秋に収穫祭を予定している。去年は、地域内の道路清掃とけん玉日本一の先生（野上在住）を招き、けん玉大会を行った。終了後の焼きそばパーティでは、親子、隣近所の交流、親睦が図られた。

自治会の代表的な行事は、春に新緑祭り、夏は夏祭りを開催し、秋は春日神社の大祭に参加・協力をしている。中でも春の新緑祭りは参加者も多く、餅つき、ビンゴゲーム、焼そば、ビール等、地域が一体となりたいへん賑やかな祭典となっている。

大門地区（大門第一、第二、第五自治会）は、一般の多くの人々が参加する行事としては「霞川稲荷神社」の祭典と、「大門神社」の祭礼がある。

毎年2月初めには、第三中学校の北側にある霞川稲荷神社の祭典が行われる。この時期は、一年中で最も寒いので、みんな凍えるような表情でお祭りに臨み、炭火で焼いたメザシと油揚げを食べ、向こう一年の無病息災を祈っている。また、「原大門囃子連」のお囃子も奉納され、厳冬の中でも大人も子供もたいへん賑やかな祭典となっている。

4月になると大門神社の祭礼があり、大門第一と第二地区では、神輿を担いで町内を練り歩き、第五地区では、山車の町内巡行と原大門囃子連のお囃子で祭りを盛り上げている。この時期は大門地区のいたる所で桜花爛漫の景色が見られ、4月の温暖な気候と相まって大門神社祭礼はたくさんの人々が参加し、地域が一体となる一大行事となっている。

塩船地区（塩船自治会）は、年間行事としては第3支会および連合会の行事が中心となる。

自治会独自の行事では、「塩船夏まつり」があ

る。これは各種団体の協賛で毎年8月に行われ、朝、切り出した青竹で槌をつくり、3本、4本と繋げての流しソーメン！ 同様に青竹で作った器につゆを入れて麺をすくって食べる。夏ならではの「流しソーメン」をメインに、子供たちの「ヨーヨー釣り」「魚の掴み取り」等のゲームあり、カキ氷、焼きそば、大人には生ビール等の酒類のサービスも大好評。そして夜には花火の打ち上げで終了となる。例年、午後3時から8時までの5時間、大人も子供も大勢が楽しんでいる。また子供会や囃子連による催しも沢山ある夏祭りである。

さらに、独自の活動では毎月1回の町内美化デー、その当日行われる資源回収や、その実施団体による運動広場の除草、清掃など町内の環境美化活動を実施している。

谷野地区（谷野自治会）は、東西に走る山根通りを挟んで約400世帯が生活している。その内自治会加入世帯は270世帯で、連合会が発足した50年前はおよそ60世帯の人々が、蔵主神社、真浄寺を中心にひっそりと生活していた。そして谷野のほぼ中央にある十王堂には、むかし子供たちが蹴飛ばして遊んだと伝えられる、全国的にも珍しい木製の「蹴飛ばし地蔵」が今も安置されている。谷野の大きな行事としては、春の蔵主神社祭典、夏の盆踊り大会、秋の市民運動会があり、それぞれ大勢の地域住民が参加し、親睦を深めている。そして安全、安心で快適な街づくりのために、毎月第2日曜日には全会員が参加して「美化デー」を実施、また子供たちの登下校時を中心に毎日2人1組で地域内をくまなく歩く「防犯パトロール」も行っている。これからも谷野に住んでいてよかった、ずっと住み続けたいと思える街づくりを目指し活動していく。

木野下地区（木野下自治会）は、北側をなだらかに下る霞丘陵に守られ、南に霞川が流れる、古来より人の住む穏やかな土地である。

緑豊かな木野下神社を中心とし東西に長く延びる地域で、住民は1,322人、482世帯、自治会加入299世帯、62%の加入率である。

自治会の行事としては、4月初めの木野下神

社の祭典、納涼盆踊り大会、五穀豊穡を願う二百十日祭、秋の第3ブロック運動会等があり、会員の協力により楽しく行われている。

また、長寿会、昭和会（成人）、子供会、環境美化委員の協力により毎月1回の〈資源回収〉を行ったり、木野下運動広場、木野下中央公園、溜め池の清掃等を行い環境に優しい住み良い地域を目指している。

さらに全自治会員の協力で順次各隣組による週1回の〈防犯パトロール〉を行い安全安心な地域をみざしている。

今寺地区（今寺西、東、東第一、第四、第五自治会）は、各自治会において、親睦旅行、バーベキュー大会、ファミリーゴルフ大会、盆踊り大会等のふれあい事業、自治会館・公会堂・運動広場の管理や清掃活動などを行っている。

5自治会の連携を強化し、地域社会の発展を図ることを目的とする今寺連合自治会と、環境美化推進委員会、子供会、今寺ファイブが協力して、年間12回の資源回収を実施している。その他、常盤樹神社祭礼への参加・協力と付近の清掃、地区運動会の練習を行っている。

さらに、地区市民運動会や障害者団体と地域住民が交流・親睦を深め、福祉の向上と地域の安全・安心に繋げるため、年2回の「かすみフードフェスティバル&フリーマーケット」に他の団体と共に参加・協力をしている。

これらの行事を通して、地域住民の住みよいまちにするために日々活動している。

## 4 各種団体と事業

### (1) 体育振興事業

昭和61年度から体育振興部長、副部長を支会役員の中に置き、組織を強化している。スポーツを通じてのまちづくりを具体的な展開として掲げ、主な事業は、レディースバレーボール大会、ファミリーゴルフ大会、ビーチボール大会、地区市民運動会である。各事業を通じ、住民の交流、親睦が図られている。

### (2) 大門地区防災対策委員会

自治会長および各種団体代表者をもって組織

している。活動は地域住民を対象とした防災訓練および防災意識普及運動を行っており、毎年8月に大門と今寺の2会場で地域住民と消防団が一体となって防災訓練を実施。6月には防災講演会と市民センターでの夜間避難訓練を実施している。



防災訓練

### (3) 青少年対策大門地区委員会

委員は、自治会長、児童委員、青少年委員、PTA、小中学校の先生などで組織し、子供達の行動に対し多方面から見守り活動をしている。主な事業は、春の少年少女球技大会、講演会、ふるさと祭りでの体力測定、親子ビーチボール大会での子供会活動への協力である。

### (4) 青梅交通安全協会第3支部

関係行政機関の交通安全に関する各種行事に協力するとともに、交通安全講習会の実施など地域の交通安全の啓蒙を図っている。また、第3支会や各自治会等が行う諸行事等での交通整理、通学路の登校時の交通整理、さらに、当地域内にある古刹等の観光客や年末年始の参拝者の整理誘導などを実施している。

### (5) 消防団第8分団

昭和55年度から第3分団の発展的組織替えにより第8分団に分割される。現第3支会管内には、第2部、第3部が置かれている。地域性を考え、都市型火災、山林火災など、あらゆる火災に対応できるよう日々の訓練に励み、地域住民と連携し、地域文化祭「ふるさと祭り」では消防車等の展示、広報活動を展開し、意識の高揚、防災活動の充実を図っている。

### (6) 震老壮大学

昭和40年に青梅市で一番目に開校。学区域

は第3支会、第9支会、第11支会の区域で、現在学生数は205人。大門市民センターで毎月歴史や健康の講座、研修等の事業を行っている。

#### (7) 大門地区環境美化委員会

従来の衛生協力委員を名称変更し、環境美化向上を目的に設立された。活動は、多摩川1万人清掃大会など青梅市が行う各種施策への参加協力のほか、自治会等が行う資源回収への協力、美化デーの推進および当委員会独自で支会内を清掃している。さらに、ゴミの不法投棄防止の監視、協力を実施している。